

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (小学校 体育科)



平成 23 年度から、小学校では新学習指導要領が全面実施となりました。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については、平成 22 年 11 月に「評価規準の作成のための参考資料」が、平成 23 年 3 月には、「評価方法等の工夫改善のための参考資料」が、国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は、新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして、佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 小学校体育科における教科目標、評価の観点のその趣旨について
- 3 小学校体育科における学習評価の進め方
- 4 小学校体育科における学習評価事例
- 5 小学校体育科における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の関わったの最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落とししていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点		新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・ <u>表現</u> 」
「技能・ <u>表現</u> 」	→	「技能」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

小学校 体育科における教科目標，評価の観点及びその趣旨

1 教科目標

心と体を一体としてとらえ，適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り，楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

⇒学校教育法では，小学校において「義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施す」ことや，「生涯にわたり学習する基盤が培われるようにする」ことが規定されており，今回の改訂において，この視点により「生涯にわたって」「基礎」ということが明確に示されました。

2 評価の観点及びその趣旨

運動や健康・安全への 関心・意欲・態度	運動や健康・安全に についての思考・判断	運動の技能	健康・安全についての 知識・理解
運動に進んで取り組むとともに，友達と協力し，安全に気を付けようとする。また，身近な生活における健康・安全について関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力に適した課題の解決を目指して，運動の仕方を工夫している。また，身近な生活における健康・安全について，課題の解決を目指して考え，判断し，これらを表している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。	身近な生活における健康・安全について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

⇒観点については，運動領域と保健領域（第3学年以上）で構成され，それぞれ3観点で評価を進めます。

運動領域：「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」

保健領域：「健康・安全への関心・意欲・態度」「健康・安全についての思考・判断」「健康・安全についての知識・理解」

3 学年別の評価の観点の趣旨

【運動領域】

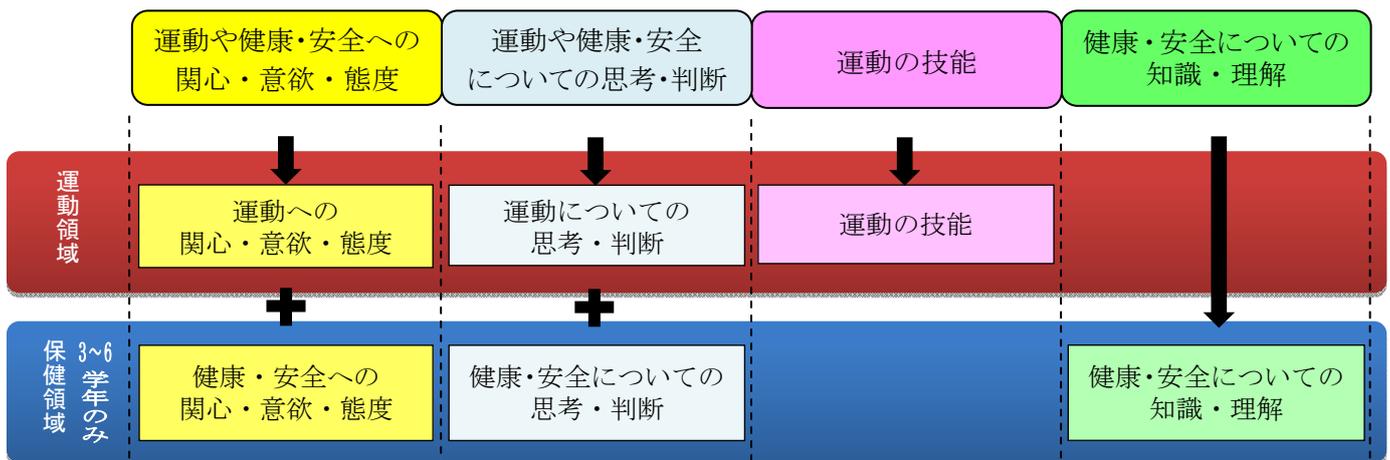
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
第1学年 及び 第2学年	運動に進んで取り組むとともに，だれとでも仲よく，健康・安全に留意しようとする。	運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きを身に付けている。
第3学年 及び 第4学年	運動に進んで取り組むとともに，きまりを守り互いに協力し，健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題をもち，運動の仕方を工夫している。	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能を身に付けている。
第5学年 及び 第6学年	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう，進んで運動に取り組むとともに，協力，公正などの態度を身に付け，健康・安全に留意しようとする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や運動の取り組み方を工夫している。	運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。

【保健領域】

	健康・安全への 関心・意欲・態度	健康・安全についての 思考・判断	健康・安全についての 知識・理解
第3学年	健康な生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	健康な生活について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第4学年	体の発育・発達について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	体の発育・発達について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	体の発育・発達について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第5学年	心の健康やけがの防止について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	心の健康やけがの防止について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	心の健康やけがの防止について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
第6学年	病気の予防について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	病気の予防について、課題の解決を目指して実践的に考え、判断し、それらを表している。	病気の予防について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

小学校体育科における学習評価の進め方

体育科における学習評価の観点



⇒指導要録等の4つの観点による評価を行う場合、3年生以上においては運動領域と保健領域を合わせて評価することになります

評価規準は、どうやって設定するの？

運動領域の評価規準を設定するにあたっては、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」（以下参考資料）に示されている「評価規準の設定例」を必要に応じて修正し、単元の評価規準を設定します。次に、各学校の指導計画に基づき、単元の評価規準を具体化するために、学習活動に即した評価規準を設定します。

保健領域の評価規準の設定するにあたっては、学習指導要領を踏まえ、単元の目標を明確にするとともに、「評価規準に盛り込むべき事項」を活用し、単元の評価規準を設定します。次に、具体的な授業をイメージして「評価規準に盛り込むべき事項」や「評価規準の設定例」を参考に学習活動に即した評価規準を設定します。

各観点の評価方法は？

【運動への関心・意欲・態度】の評価方法

□この観点の評価は基本的に次の4つの項目について評価していきます。

- ・運動そのものに進んで取り組もうとしているか。(関心・意欲)
- ・用具等の使い方や運動の行い方の決まりを守り、友達と共に運動しようとしているか。(公正)
- ・友達と協力して準備や片付けを行っているか。(協力)
- ・運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けているか。(安全)

□この観点は、行動の観察が主になります。単元の中でそれぞれの項目に視点を当てて総合的に評価する必要があります。

⇒行動の観察，学習カード等の記述

【運動についての思考・判断】の評価方法

□この観点の評価は基本的に次の3つの項目について評価していきます。

- ・運動の行い方（規則的なものも含む）を知っているか。(運動を行う上での知識)
- ・よりよく運動を行うための練習の仕方を見付けたり，練習方法や練習の場を選んだりしているか。(練習の工夫)
- ・友達のよい動きや取り組み方を見付けているか。(友達との関わり)

□この観点は、学習カード等にかかれた練習の計画などと実際の活動を合わせて評価する必要があります。特に個人で行う運動については、自分の能力を高めるために考え、行動したことを評価し、球技等のチームで行う運動については、チームの仲間に向けて考え、行動したことを評価します。

⇒行動の観察，学習カード等の記述，振り返りでの相互評価，チームの作戦ボード

【運動の技能】の評価方法

□この観点は、運動を行うための基本的な技能を身に付けているかどうかを評価していきます。

- ・運動を行うための基本的な動き（走る，跳ぶ，投げる，捕る，泳ぐなどの基本的な動き）
- ・運動の特性に応じた基本的な技能（対象の運動の特性にふれる特徴的な動き）

□この観点は、実際に運動をしている児童の姿そのものを見て評価します。一瞬の動きを評価する場面が多く、より具体的な評価規準を設定することが大切です。小学校学習指導要領解説 体育編には、具体的な指導事項が明記されています。

⇒行動の観察，学習カード等の記述，振り返りでの相互評価

[小学校学習指導要領解説 体育編 障害走に関する例示の記述]

低学年	運動を楽しく行うための基本的な動き	○低い障害物を用いてのリレー遊び ・いろいろな間隔に並べられた低い障害物を走り越えること
中学年	運動を楽しく行うための基本的な動きや技能	○いろいろなリズムでの小型ハードル越え ・インターバルの距離や小型ハードルの高さに応じたいろいろなリズムで小型ハードルを走り越えること ○40～50m程度の小型ハードル走 ・一定の間隔に並べられた小型ハードルを一定のリズムで走り越えること
高学年	運動の特性に応じた基本的な技能	○40～60m程度のハードル走 ・第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えること ・ハードル上で上体を前傾させること ・インターバルを3～5歩のリズムで走ること

【健康・安全への関心・意欲・態度】の評価方法
単元の内容について関心をもち、学習活動に進んで取り組もうとしている状況の評価する。

【健康・安全についての思考・判断】の評価方法
以下の2つの状況について評価する。

- ・単元の内容に関する課題や解決方法を見付けたり選んだりし、それらを説明している状況
- ・学習したことと自分の生活とを比べたり関係づけたりし、それらを説明している状況

【健康・安全についての知識・理解】の評価方法
単元の内容として基礎的な事項について、理解したことを言ったり書いたりしている状況の評価する。

小学校体育科における学習評価事例 1

■ 単元全体を通して、学習評価の進め方が分かる事例（第4学年／「マット運動」B器械運動(1)ア）

ここでは、運動領域の3つの評価を8時間の単元の中でバランスよく設定しました。1単位時間に1つまたは2つの評価規準を設け、単元終了時に各時間の評価を総括して、単元の観点別評価として記録しています。

1 単元名 マット運動の達人になろう

2 単元の目標

- (1) 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。 （運動の技能）
- (2) マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、活動の場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。 （運動への関心・意欲・態度）
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるための活動を工夫することができるようにする。 （運動についての思考・判断）

3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ・技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 ・器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 ・友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 ・運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技の動き方や技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。 ・基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力に合った基本的な回転技や倒立技ができる。
<p>「単元の評価規準」は、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」に記載されている設定例です。単元計画を作る際には、下の「学習活動に即した評価」のように、<u>学校・学級の状況に即した具体的な評価規準を設定します。</u></p>			
学習活動 に 即 した 評 価 規 準	<ol style="list-style-type: none"> ①それぞれの技を習得しようと、マット運動に進んで取り組もうとしている。 ②器具の使い方や試技のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 ③友達と協力して準備や片付けをしようとしている。 ④運動する場の危険性を取り除き、器械・器具や試技前の安全を確かめようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本的な技の動き方やポイントを知るとともに、自分の力に合った技を選んでいる。 ②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ、両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。 ②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ、腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。
<p>中学年ではマット運動は回転系と倒立系が示されています。ここでは4年生ということで、回転系については学習を終えていると判断して評価規準を設定しています。</p>			

4 単元の指導と評価の計画（全8時間）

時間	主なねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	オリエンテーション 1 学習の進め方 2 学習の約束 3 場づくりの説明 4 準備運動の仕方 5 できる技の試行 6 学習の振り返りの仕方	④運動する場の危険性を取り除き、器械・器具や試技前の安全を確かめようとしている。 (観察) (学習カード)	学習の約束や場づくりの説明した事柄（試技を安全に行う手順やマットの置き方・使い方など）が、できる技の試行を行う際に確認できているかを観察によって評価する。学習カードの自己評価の欄を設け、その評価も参考にする。	
2	1 用具の準備 2 準備運動 3 めあての確認	①それぞれの技を習得しようと、マット運動に進んで取り組もうとしている。 (観察) (学習カード)	新しく知った倒立技を習得しようと練習をしている様子の観察や学習カードの感想や自己評価の記述等を参考にして評価する。	
3	倒立技のポイントを見付けよう 4 倒立技の練習 ・壁倒立 ・補助倒立 ・頭倒立 ・ブリッジ ・腕立て横跳び越し } 4時目に指導 ・側方倒立回転 } 2時目に指導	前時の学習カードから、どのような技に取り組むか、どのような練習方法を行うかを記入させておき、その達成状況を観察と自己評価を参考に評価する。	①基本的な技の動き方やポイントを知るとともに、自分の力に合った技を選んでいく。 (観察) (学習カード)	①体を振り下ろして両手を着くとともに脚を振り上げ、両足を壁にもたせかけ逆さ姿勢になることができる。 (観察) (学習カード)
4	5 振り返り 6 後片付け		②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいく。 (観察) (学習カード)	
5		③友達と協力して準備や片付けをしようとしている。 (観察) (学習カード)		②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ、腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。 (観察) (学習カード)
6	1 用具の準備 2 準備運動 3 めあての確認 できる技での連続技に挑戦しよう	②器具の使い方や試技のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 (観察) (学習カード)	②マット運動の技の練習の仕方を知るとともに、自分の力に合った練習方法や練習の場を選んでいく。 (観察) (学習カード)	
7	4 連続技の練習 ・できる技の繰り返し ・できる技2種類の組合せ ・倒立技と回転技の組合せ など 5 振り返り 6 後片付け	連続技については、高学年で「できるようにする」レベルであり、中学年では「配慮する」と記載されている。そこで、6・7時目は、今までに身に付けた技を連続して行う楽しさを味わうことに重きを置き、技能については、本単元で練習してきた倒立系の技に絞って評価するようにしている。		②体を振り下ろして体側に着手するとともに脚を振り上げ、腰の位置を高く保ちながら反対側へ移動することができる。 (観察) (学習カード)
8	1 用具の準備 2 準備運動 3 めあての確認 マット運動発表会をしよう 4 発表の練習 5 発表会 6 振り返り 7 後片付け	②器具の使い方や試技のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 (観察) (学習カード)		

◎単元の観点別評価の総括

観点 \ 時間	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	総括
運動への関心・意欲・態度	④→A	①→B			③→B	②→A		②→A	A
運動についての思考・判断			①→C	②→B		②→A			B
運動の技能			①→B		②→A		②→B		B

単元の評価の計画は、取り上げる単元の評価規準をすべて評価できるように設定します。また、1単位時間の評価は多くとも2つの観点までの評価にとどめ、その時間で評価する（A・B・Cを判断する）観点を絞るようにします。

単元の観点別評価の総括は、単元を通して観点別に総括的な評価するというものです。そのため、どの観点も複数回の評価が行えるように設定し、そこから総括的な評価としてA・B・Cを判断します。

総括的な評価の判定の方法としては、Aが半数以上の場合は総括的な評価はAとなり、Cが半数以上の場合は総括的な評価はCとなる。それ以外はBとする。（AACB→総括「A」 ABCC→総括「C」）

上の表「◎単元の観点別評価の総括」を例にとり、総括的な評価の判断の仕方を示します。

□ 運動への関心・意欲・態度

Bの判定が2回、Aの判定が3回であり、半数以上がAの判定なので総括的な評価はAとする。

□ 運動についての思考・判断

Cの判定が1回、Bの判定が1回、Aの判定が1回であり、平均的な判定として総括的な評価はBとする。

□ 運動の技能

Bの判定が2回、Aの判定が1回で、Aは半数以下のため総括的な評価はBとする。

※ 特に運動の技能については、「基本の動きや技能ができる」ことが重要であり、単元の後半にうまくできるようになることも多くなります。そのため、単元の前半よりも後半の評価に重み付けをすることも考えられます。

◎単元の指導と評価計画を作成する上で留意すること

前述の「4 単元の指導と評価の計画」にあるように、観点ごとの評価を振り分けて設定し、計画を立てますが、以下の2点については十分留意する必要があります。

① 各観点の評価は、単元を通して複数回の判定を行うように計画すること。

評価の信頼性は、ひとつの観点について複数回の評価を行い、総括することで、より高まります。単元最後の〇〇発表会などの場面のみで、評価をすることがないようにしましょう。

時間	関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	○		
2			○
3	○	○	
4		○	○
5	○		
計	3回	2回	2回

表1 評価回数のチェック

② A/B/Cの判定を行う評価（総括的な評価）と評価の計画に設定されない適時的な評価（形成的な評価）があること。

右の表1のように、その時間に行う評価の観点と内容は計画されています。これは、先生たちが、子どもたちの姿からA/B/Cの評価をし、指導簿等に記録していくということを明確にしたものになります。

注意したいのは、評価の計画がない場合も評価する場面があるということです。例えば、ハードル走で「ハードル上で上体を前傾させる」ことがうまくできていない児童に、「振り上げ足に手でタッチするつもりで」などとアドバイスをする場合です。指導したことが評価規準に届いていないと判断した場合は、評価規準を達成できるように指導や支援を行うということです。しかし、この場合はA/B/Cの評価を行わず、その後の評価の計画で設定された時間に評価規準に沿って評価をします。

また、それぞれの観点に照らして特に優れた活動状況が確認できた場合です。その児童を称賛するとともに、その観点に対しての評価の材料として記録しておきます。

小学校体育科における学習評価事例 2

■ 1 単位時間の中で、指導のための評価（形成的な評価）と、本時の評価規準の達成状況を判断する評価（総括的な評価）を示した事例（第5学年／「バスケットボール」Eボール運動(1)ア）

ここでは、1単位時間の中で常時行われる指導と評価の在り方と、1単位時間の学習を通してその時間の学習状況を総括した評価を示しています。1単位時間の総括的な評価の積み重ねが単元はもとより学期の通知表の評価や指導要録の評価につながっていきます。

単元名 バスケットボール

本単元の単元計画は10時間としています。1時目のオリエンテーションの後、2時目～5時目までを基本的な技能を身に付けることを重視したゲームを、6時目～9時目は自分のチームの特徴に応じて作戦を工夫してゲームを行うように計画しています。10時目はまとめのゲームを行い振り返りの時間を設定しています。本事例では思考・判断の観点で評価をするようにします。

1 本時の目標（7／10）

- ・ 味方が取りやすいパスを投げたり、相手からパスカットされない位置に動いてパスを受けたりしてゲームをすることができるようになる。 （運動の技能）
- ・ コートや用具の安全に気を付けながらゲームに取り組むことができるようにする。 （運動への関心・意欲・態度）
- ・ チームで話し合い、自分のチームの特徴を生かした作戦を考えることができるようにする。 （運動についての思考・判断）

2 本時の指導と評価の計画

主な学習活動	評価方法の具体とその進め方
<p>1 準備運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パス、シュートの練習（チームで） <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>チームの特徴を生かした作戦を工夫してゲームを楽しもう</p> </div> <p>3 前半の相手のゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム①5分→作戦2分→ゲーム②5分→反省・移動3分 <p>4 チームで作戦会議をする。5分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作戦の見直しをする。 ・ 作戦を確認するための練習をする。 	<p>※事前に個々の学習カードから前時の反省や本時の活動目標を確認しておき、評価表等に記録しておきます。</p> <p>◇パスやシュートの練習やゲームの様子を観察し、これまでに指導した基礎的な技能の習得が十分でない児童に助言を行う。（形成的な評価 「技能」）</p> <p>※形成的な評価は評価規準の「おおむね満足」に到達していない児童に対して、「おおむね満足」になるように指導や助言を行うことです。ここではその評価の達成度を評価すること（A/B/Cを付けること）はしません。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">本時における思考・判断の評価</p> <p>評価の視点</p> <p>具体的には、次の3点を留意して評価や支援に役立てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ チームの課題が明確になっているか。 ◎ 課題に合った作戦になっているか。 ◎ 各自の動きや役割が明確になっているか。 <p>評価の方法</p> <p>チームでの話し合いの様子や練習・ゲームの様子を観察が中心になります。</p> <p>評価の材料…作戦ボード、観察、学習カード 参考にするもの…学習カードの自己評価 振り返りの際の相互評価</p> </div>

5 後半の相手とゲームを行う。

- ・ゲーム①5分→作戦2分→ゲーム②5分
→反省3分



6 チームでの振り返りをする。

- ・学習カードへの記入

7 学習の振り返りをする。

- ・次時の学習のめあての記入
- ・次時の学習の確認

評価規準

「おおむね満足できる」状況（B）

- ・これまでのゲームの結果から、作戦を考えつづやいたり、作戦カードに書いたりしている姿
- ・決定した作戦を理解し活動している姿

「十分満足できる」状況（A）

- ・チームの課題や一人一人の役割にあった作戦を考え提案している姿
- ・ゲームや練習の際に考えた作戦を自ら行うとともにチームのメンバーにアドバイスしている姿

「努力を要する」状況（C）に対する支援

作戦が思いつかない児童には、友達の意見を聞いて作戦を選ばせたり、考えたりするように助言する。

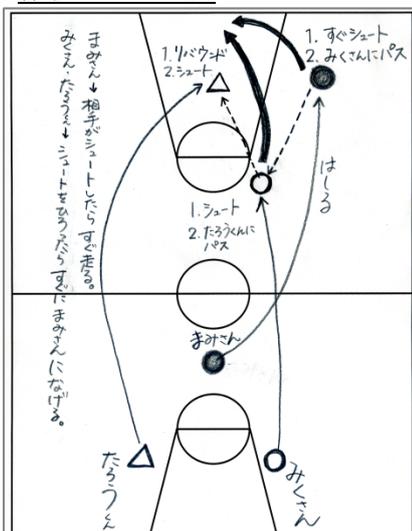
※学習カードに書かせて評価の材料とするもの

- ・自分の活動目標に対する自己評価
- ・本時の学習のめあてに対する自己評価
- ・友達のよいところ（相互評価）

ここでの自己評価や相互評価は、実際にゲームや作戦会議の中での児童の様子を観察し評価したものを補ったり参考にしたりするためのものです。好ましい記述や発言についてはそのよさをほめ、改善が必要なものには「〇〇を試してみたらどうかな？」などアドバイスをを行うようにします。

※次時の学習のめあてを記入させる際に、本時の学習での課題を解決する意識をもたせる必要があります。そのためにも、学習課題の視点となること（指導目標につながること）の一覧表などを学習カードにあらかじめ準備しておきましょう。児童が体育の学習を進める上で迷うことが少なくなります。

作戦ボードの例



チームでの運動については、「作戦」という点が評価の視点になります。話し合いだけで終始せず、作戦ボード（ここではA4用紙に書き込ませています。）などを使って、話し合ったことが残るようにしました。子どもたちもそのボードを確認することで作戦への理解が深まりますし、評価においても、どのような意図で作戦を決定したのかが分かる材料になります。

学習ノートでの振り返りの例

自分の評価とひとこと	
A	チームの作戦は「まみさんがパスをとり、すぐにまみさんになげることだった。はじめはパスが合わなくてダメだったけど、パウチパスにしたら、うまくいった。まみさんもシュートがさあってゲームもかかった。評価はAにした。

この児童の評価すべき点として、自分たちの作戦とそれに対する活動の様子が記述されている。また、作戦に対する自分の活動で課題を見付け、修正している記述があり、学習カードでの教師の評価は「十分満足できる」状況（A）判断とした。活動の様子を重視しながらも自己評価や相互評価を加味して、思考・判断の能力を評価していった。

小学校体育科における学習評価の進め方Q&A

Q 形成的な評価と総括的な評価という言葉がありますが、どのような違いがあるのですか？

A 総括的な評価…学習活動が一区切りした際に、指導と学習の成果を確認するために行う評価です。その活動の中での活動状況を、「十分満足できる」と判断されるものをA、「おおむね満足できる」と判断できるものをB、「努力を要する」と判断されるものをCで評価します。1単位時間の最終的な評価や単元終了時の各観点の評価、通知表、指導要録の評価も総括的な評価にあたります。この総括的な評価は、「1学期の評価を2学期の評価に生かす」、「第3学年での評価を第4学年での評価に生かす」といったように、長いスパンで考えたときには、形成的な評価と捉えることもできます。

形成的な評価…学習指導の途中で、学習活動を促進と指導方法の確認・修正のために行う評価です。

1単位時間の指導目標に到達するように、授業途中で指導やアドバイスをしたり、これまでに指導してきたことができるようになっていくことに対し称賛をしたりする評価のことをいいます。特に前者の指導やアドバイスはすべての児童に行うものではなく、このまま活動を進めていくと総括的な評価で「努力を要する」状況（C）と判断されるような児童に対して、より「おおむね満足できる」状況（B）に近付くように行います。そのため、児童の状況によって教師側の手立てを臨機応変に変えていく必要があります。

Q 体育科における評価で特に留意すべき点は何ですか？

A より具体的な児童の姿を評価規準として設定しておくことです。

運動領域の場合、実際の学習活動における評価は、動きの中で行う場合が多くなります。そのため、同じ活動の様子を何度も観察することが難しく、一連の動きの中から評価する必要があります。そのような活動を評価していくためには、評価規準をより具体的な姿として設定しておくことが重要になってきます。そうすることで、評価すべき点を絞って児童の活動の様子を観察することができます。また、具体的な姿を評価規準としたことで、そのつまずきに対する支援もより具体的になってくると考えられます。

A 量的な評価規準にならないようにします。

運動領域の評価においては、タイムや距離などの記録に引きずられた評価にならないようにしなければいけません。例えばハードル走において、ハードルをリズムよく走り越えていないにもかかわらず、学級で一番タイムがいいから運動の技能の評価が「十分満足できる」状況（A）となったりするケースです。「ハードルをリズムよく走り越えられたか」というハードルの越え方や走り方の質に関わる評価であれば、タイムや距離などの記録に関わりなく、その児童の身に付けた技能を評価することができます。指導したことが正しく身に付いているかどうかを適切に評価することが大切です。

Q 保健領域の評価規準はどのように設定したらよいですか？

A 国立教育政策研究所からの資料を参考することで比較的簡単に設定することができます。

保健領域の評価については、学習指導要領の内容のまとまりと実際の単元がほぼ一致しています。単元の評価規準は国立教育政策研究所の「評価規準の作成のための参考資料」の中の「評価規準に盛り込む事項」を、学習活動に即した評価規準（各1単位時間の評価規準）は同参考資料の「評価規準の設定例」をそれぞれ参考にすることで評価規準を設定することができます。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の工夫改善のための参考資料」(小学校)などを参考にして、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>